

令和 5 年 4 月 2 5 日
郷土博物館金のすず
0438-23-0011

木更津市郷土博物館金のすずに新館長が着任しました

令和 5 年 4 月 1 日付で、木更津市郷土博物館金のすずに谷畑美帆たにはた み ほさんが新しい館長として着任しました。外部からの登用は初めてとなります。

谷畑新館長は、現在、明治大学文学部兼任講師や明治大学黒耀石研究センター客員研究員として活躍されるとともに、木更津市史編集委員会委員も務められています。また、以下のとおり多数の論文を執筆されているほか、小説『鈴鳴りの彼方で』を書かれるなど、多方面でご活躍されています。

履歴

明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業後、東京芸術大学大学院にて博士号（学術）取得。英国自然史博物館特別研究員・北里大学一般教育部特別研究員等を経て 2016 年より明治大学黒耀石研究センター客員研究員。考古学と人類学の研究手法を併用しつつ、遺跡から出土する古人骨を鑑定しています。中でも、骨病変として提示される所見を中心に過去の社会・生活様相に関して研究をされています。

研究業績

著書

- 2006 年 『江戸八百八町に骨が舞う』吉川弘文館（単著）
- 2010 年 『0 脚だったかもしれない縄文人』吉川弘文館（単著）
- 2018 年 『骨と墓の考古学-大都市江戸の生活と病』角川ソフィア文庫（単著）
- 2020 年 『金鈴塚古墳出土品再整理報告書』木更津市教育委員会（共著）
- 2021 年 『鈴鳴りの彼方で』つむぎ書房



主な論文

- 1993 年 「日本及び朝鮮半島出土の垂飾付耳飾について」『考古学研究』第 40 巻第 1 号
- 2015 年 「金鈴塚古墳における被葬者について-出土歯牙を中心として-」『金鈴塚古墳研究』第 3 号（木更津市郷土博物館金のすず）（共著）
- 2019 年 「横穴墓に埋葬されている被葬者からの骨考古学的検討」『駿台史学』第 165 号

※併せて、木更津市郷土博物館金のすずでは、5 月 7 日まで企画展「木更津市民の 80 年」を実施しております。企画展では、流通した貨幣のほか、交通の発展や戦後の混乱期の資料など写真と合わせて 150 点を展示しています。開催期間中は観覧料無料です。

本件につきましても、取材・記事掲載にご協力のほどよろしくお願いいたします。